

発表項目 (行事名)	第42回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者の決定について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>◆全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール 全日本中学生水の作文コンクールは、「水の週間(8月1日から7日間)」の関連行事として、国が毎年実施しており、道としてもこのコンクールと連携して、昭和54年から北海道地方コンクールを実施し、今年で42回目となります。</p> <p>◆北海道地方コンクール受賞者 応募のあった145編の中から優秀賞(1編)と入選(4編)及び学校賞(2校)を決定し、北海道知事から賞状及び副賞を贈呈します。 なお、賞状及び副賞は発送済みで、個人賞(優秀賞、入選)の賞状及び副賞は所属中学校を通して伝達することとしております。</p> <p>◆全日本中学生水の作文コンクール中央審査 優秀賞1編は、全日本中学生水の作文コンクール中央審査の対象として国土交通省に推薦しています。 なお、中央審査において受賞した際は、再度、受賞内容等を発表させていただきます。</p>		
参考	<p>◆北海道地方コンクールの概要・・・別紙1</p> <p>◆入賞者一覧・・・・・・・・・・別紙2</p> <p>◆優秀賞作品・・・・・・・・・・別紙3</p>		

報道(取材)に当たってのお願い	<p>◆このコンクールは、北海道として、「水の週間」を広く啓発するための行事です。</p> <p>◆これからの北海道を担う若い世代に水の大切さや北海道の自然、世界の環境問題などを考えてもらう絶好の機会としてこのコンクールの存在や意義を広くアピールしたいと考えています。</p> <p>◆今回の入賞者の決定について積極的な報道をしていただきますようお願いいたします。</p>		
他のクラブとの関係	同時配付 <del>同時配付</del>	(場所) ※空知総合振興局記者クラブ、石狩振興局記者クラブ 留萌振興局記者クラブ	
担当 (連絡先)	総合政策部政策局土地水対策課課長補佐 大島 TEL ダイヤルイン 011-204-5135 (内線23-713)		

## 第42回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の概要

## 1 目的

「水の週間（8月1日～7日）」の行事の一環として国が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、北海道においても次代を担う中学生を対象に「北海道地方コンクール」を実施し、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的とする。

## 2 応募要領

## 第42回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」応募要領

国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水循環基本法（平成26年7月施行）第10条において、8月1日は「水の日」と定められ、あわせて、国では、この日からの一週間を「水の週間」とし、「全日本中学生水の作文コンクール」を実施するなど、毎年様々な行事を行っています。

北海道においても、この「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、次代を担う道内の中学生を対象として、「北海道地方コンクール」を次のとおり実施します。

（北海道地方コンクールの優秀作文は、「全日本中学生水の作文コンクール」の中央審査に推薦します。）

## 1 テーマ「水について考える」（題名は自由です。）

“水の惑星”と呼ばれる地球。でもその水は、無限ではありません。海から蒸発して雲になり、雨や雪となって地上に降り、川から再び海へと循環しているのです。

地球上をめぐる限られた水を、人々は身近な生活のほか、農業や工業など多くの場面で便利に使っています。その一方で、ときには洪水や水不足の被害に見舞われることもあります。

水の恵みを利用し、災害を防ぐために、はるかな昔から現在まで、人々はさまざまな努力をしてきました。水とのつきあい方の工夫は、町のいたる所で目にすることができます。

あなたにとって、水とはどんなものですか？暮らしのなかでの体験や、授業で学んだことや調べたことをもとに、水についての考えを作文にまとめてみましょう。

## 2 主催・後援

主 催 水循環政策本部、国土交通省、北海道  
後 援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道中学校長会

3 応募資格 令和2年度（2020年度）に在学中の道内の中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

4 原 稿 400字詰原稿用紙3枚以上4枚以内で日本語により表記された個人作品に限ります。

5 応募期限 令和2年（2020年）5月8日（金）（当日消印有効）

6 応募方法 作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に「題名」、「学校名（ふりがな）」、「学年」、「氏名（ふりがな）」を記入し、次の送付先に送付してください。なお、個別の題名は自由です。

7 送 付 先 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
北海道総合政策部政策局土地水対策課土地水調整グループ（TEL 011-231-4111 内線23-741）

8 審 査 5月に「北海道地方コンクール」の審査を行い、入賞作文を決定します。  
なお、優秀賞作文は国土交通省が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査に推薦します。

9 賞及び賞品 (1) 優秀賞 3名以内（賞状及び副賞）  
(2) 入 選 3名程度（賞状及び副賞）  
(3) 学校賞 3校程度（賞状及び副賞）

10 賞の発表 発表は6月に行い、所属中学校を通じてお知らせし、賞状及び副賞を送付します。

11 使用権等 (1) 応募作品は自作の未発表のものに限ります。  
(2) 応募作品の使用権は主催者に帰属します。  
(3) 応募作品の返却は行いません。

## 12 そ の 他

(1) 入賞作文については、作文の内容、学校名・学年及び氏名を国土交通省及び都道府県のホームページや作品集に掲載するほか、報道機関を含めた関係者へ提供しますので、予めご了承の上、ご応募ください。

(2) 本コンクールの応募作文に記載される個人情報、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。また、応募者の同意なく、本来の利用目的を越えて転用することはありません。

## 参 考

国土交通省が実施する中央審査の賞（予定）

- （１）最優秀賞 内閣総理大臣賞 1名（賞状及び副賞）
- （２）優 秀 賞 厚生労働大臣賞 1名、農林水産大臣賞 1名、経済産業大臣賞 1名、国土交通大臣賞 1名、環境大臣賞 1名、水の週間実行委員会会長賞 1名、独立行政法人水資源機構理事長賞 1名、全日本中学校長会会長賞 1名、中央審査会特別賞（賞状及び副賞）
- （３）入 選 30名程度（賞状及び副賞）
- （４）佳 作 上記受賞者を除く全員（記念品）

※ 最優秀賞、優秀賞受賞者の表彰は8月頃に東京都内で行われます。

## 第 42 回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者一覧

## 優秀賞

作 品 名	氏 名	学校名及び学年
命をつなぐ水	大麻 綺乃	長 沼 町 立 長 沼 中 学 校 2 年

(敬称略)

## 入 選

作 品 名	氏 名	学校名及び学年
「水について考える」 ～先住民からの贈り物～	池田 京香	学校法人立命館立命館慶祥中学校 3 年
「きれいな水」があれば	金子 咲希	札幌市立北野中学校 3 年
一秒でも多く節水を	高橋 ひより	学校法人札幌日本大学学園札幌日本大学中学校 2 年
「もったいない」と「めんどくさい」	渡邊 楓	留萌市立港南中学校 1 年

(敬称略、五十音順)

## 学校賞

学 校 名	備 考
岩見沢市立北村中学校	
学校法人札幌日本大学学園札幌日本大学中学校	北広島市

(敬称略、五十音順)

## 命をつなぐ水

長沼町立長沼中学校 二年 大麻 綺乃

私はいつも水を使っています。蛇口をひねれば永遠に出てくる水を、特別なものだと思ったことはありませんでした。しかし、それは恥ずかしいほどの大きな間違いだということに気がつきました。

きっかけは、学校の道德の授業でした。その日の授業は、「全ての人に安心、安全な水を」というテーマでした。水のことなど自分には関係がないと、初めは興味がありませんでした。話の内容は、汚れた水をきれいにする水質浄化剤を世界中に広め、誰にでもきれいで安全な水を届けていくというものでした。バングラディッシュの村の子どもたちが、その浄化された水を飲み、「味がしない。」と言って笑顔になったというのです。ごく当たり前のことに喜ぶことが不思議でしたが、その謎はすぐにわかりました。村の子どもたちは、無味無臭の水を飲んだことがなかったのです。驚きました。私たち日本人にとって当たり前の水が、バングラディッシュの人達にとっては、特別で貴重な水だったのです。

自分の知らない水の問題があることを知り水のことを調べてみました。すると驚くような水の現状が明らかになってきました。

水不足で苦しんでいる人が、世界で九億人もいるというのです。わずかな水を確保するにも子どもたちが数時間かけて水汲みに行かなければならないのです。そのため学校へも行けないのです。その汲んできた水も、決してきれいなものではありません。汚染された不衛生な水でも飲まなければならない、それが原因で命を落とす子どもが、毎日八〇〇人以上もいるというのです。

私たちがこうしてきれいで清潔な水を出しっ放しにしている間に、水が原因で数え切れない人達が亡くなっていくのです。無駄に流してしまった水は、もしかすると誰かの命を救えた水なのではないかと思えてきました。水は、人の命を左右する大切な存在だったのです。水に無関心だった自分が恥ずかしくなりました。私は、今までどれだけの水を無駄にしてきたのでしょうか。

この日本も、水の資源量が年々減少しているにもかかわらず、水の使用量は年々増加しているといえます。このままでは、日本も水不足で苦勞することになるかもしれません。だからこそ、水の現状にもっと関心を持ち、世界中の人達と共に水を大切にしていかなければならないのです。

その鍵を握っているのは節水や排水です。水の出しっ放しは、今すぐやめるべきです。そもそも水道の蛇口をひねると、一分間になんと十二ℓもの水が出ます。これを計算の上、こまめに蛇口を止めたり、水を溜めてから利用したりするなど工夫が必要です。また、排水にも気を配らなければなりません。安全な水を確保するには、排水も浄化していく必要があるからです。仮に油をわずか一ml排水してしまうと、それを浄化するには、なんと三〇〇ℓもの水が必要だというのです。

私も水を大切にするため、歯磨きや食器洗いは、一度水を溜めてから使い、シャワーも使う時間を短くすることにしました。雪解け水や雨水をバケツで溜めて、玄関掃除に使うなど、できることから取り組んでいます。

水は私たちになくてはならない大切なものです。水がなければ生きてはいけません。人の命をつなぐのが水なのです。だからこそ人は昔から水を大切にしてきました。今蛇口から出てくるきれいな水も、多くの人の思いや苦勞がつまったものです。そのおかげで、私たちは、今こうして安心して水を飲み、不自由なく水を使うことができます。そのことをいつも意識しながら、水を大切にしていかなければならないのです。水を大切にする一人一人の取組が、いつか世界の水問題を解決し、誰もが安心、安全な水を飲めるよう、私は今日も水を大切にします。